都民と医師を結ぶすこやか情報誌

元気がいいね

東京都医師会

●医療のいま・これから　**家族の健康⑫**

●からだ・こころ・健康　**エイズ―日本でも増えています**

●わたしの元気　**日野 皓正**さん

●第9回　都民公開講座リポート

●お医者さんに聞きたい・答えます

●連載コラム／救急医療⑬

●医療 Q&A

No.66

•とうきょう点描•

東京ビッグサイトの春

汐の香と春風かおる臨海副都心を散策しながら、地球といのちを想う。……そんな春の日があってもいいのかも。

interview わたしの元気

ライブの拍手で元気になれます。けれど練習は神様に"逆行"しているのかな!?

日野 皓正さん

Terumasa Hino

日野 皓正（ひの てるまさ）

1942年、東京生まれ。父の影響で9歳頃からトランペットを始め、55年（13歳）頃には米軍キャンプで、59年頃からキャバレーやダンスホールで演奏。ジャズ喫茶で学びつつ64年白木秀雄クインテットに参加、65年ベルリンジャズ・フェスティバルで脚光を浴び、67年初アルバムをリリース。69年にヒノテルブームが巻き起こる。その後渡米し、アメリカ、アジア、日本でツアーを行うなど世界的なジャズ・トランペッターとして活躍中。絵画でも非凡な才能を見せている。2000年大阪音楽大学短期大学部客員教授、紫綬褒章受章（04年）ほか受賞多数。09年初の自伝「逆光」を上梓。今年5月に新譜「アフターショック」を発売の予定。

コンサート活動は夜が多いので、眠るのは普通で午前2時頃、遅いときは3時を回ります。

『でも6時間眠ればOK』と日野皓正さん。8時頃には起きますが、朝はコーヒー、ヨーグルトを、柑橘類が大好きなので果物をたまに口にする程度です。11時半か12時頃には午後からの活動のためにブランチ。タンパク質と野菜を中心に、炭水化物はあまりとらないようにしているそうです。

『こういう職業なので昔から旅が多い。どこへ行っても何を食べても、やっていかなくちゃいけません。地方に行くと友だちがおいしいものを用意してくれますが、基本的に僕は栄養やパワーがあって、ステージで力を発揮できる食事ならいい。ただ塩分は控えて、納豆やおひたしにも醤油は使いません』

煙草は吸いませんが、ワインもシャンペンもテキーラゴールドもシングルモルトもみんな好きな日野さん。しかし45歳のときお酒をやめました。

『一時ステージでも飲んでましたが、度を越すと肺が空気を吸えなくて、てきめんに悪い演奏になってしまう。"チクショー、酒に負けちゃって"と思うのが嫌で、負けず嫌いなのかな。それに歳をとっても"あいつは異常だよ"と言われるくらいバリバリ吹きたいから、体力だけは保っておきたくて』

最近は日本でのステージが年間100日ほど。ニュージャージーとフロリダ、そして東京に自宅があるため日本には特殊ビザで"滞在"し、行動はだいたい妻のスーザンさんと一緒です。アメリカには奥さんの家族に会いに行ったり、ゴルフをするために帰るそうです。

『かかりつけ医もアメリカにいます。日本の健康保険に入ってないため自費診療ですから、体調が悪くなるとカミさんとアメリカに帰ります。毎年1回全身の精密検査をカミさんがセットアップしておいてくれるので、必ず受けていますよ』

風邪を年に1、2度ひく程度で、病気やケガの記憶はほとんどありません。好きなゴルフとスキーも体調維持に貢献しているのかもしれません。

『僕の場合、鏡に体を映して判断してます。太ったり、ゴルフの飛距離が落ちるとちょっとヤバイなとか。スキーのシーズンオフにはトレーニングマシンで足を鍛えたりしています』

それにしても、毎日の練習は?と気になりました。

『トランペットは唇と歯の上に金属を当ててゴリゴリやるので、唇の内側が硬くなっている。でも神様は早く元通りにしてやろうとするから、2日も練習しないと柔らかくなっちゃう。いわば練習で唇のタコを維持して神様に"逆行"しているわけ』――自伝「逆光」を指差しながらお得意のオヤジギャグ。思わず「座布団1枚!」の一幕です。

『でも、いくらいい演奏をしてもお客さんがいないと何の意味もない。ライブで、天から来た言葉をもし僕が聞けたとする。それをアドリブで演奏して、お客さんが"ああ、いいなぁ、これで明日からまた頑張れるぞ"と思ってくれたら、自分を通して変わってくれた。お客さんの笑顔や拍手、声援が僕たちの栄養になり、こっちも"よし、やってやろう"と元気になれる。無から有を生み出すアドリブはオリジナルで心がなくてはいけない。一生追求して絶対満足することはないし、"ヘッタクソだなぁ"とステージで毎日思っています』

ライブは一回きりの人生そのもの。だからこそ日野さんはあくまで追求するのでしょうか。

『まだ必要だから神様が僕を生かしておいてくれるんでしょうね。お前行っていいよと神様に言われるときまで、バリバリと演奏していきたいですね』

エイズ（後天性免疫不全症候群）日本でも増えています

どんな病気？

私たちの体は、細菌、カビ、ウイルスなどさまざまな病原体から身を守る力を持っています。これを免疫といいますが、エイズは免疫の機能が落ちる病気です。

エイズウイルス（ＨＩＶ）に感染すると、初期に風邪のような症状が出るほかは無症状の状態が数年続きます。この時期の人をＨＩＶ感染者（キャリア）と呼びます。しかしこの間にも、ＨＩＶは免疫を維持するうえで大切な役割を果たしているＣＤ４と呼ばれるリンパ球を破壊しつづけます。ＣＤ４リンパ球の数が一定以下に減ると免疫能力が低下し、エイズを発病します。健康な人には悪さをしないような弱い病原体にも抵抗力を失い、肺炎や脳炎などにかかったり、悪性リンパ腫やカポジ肉腫と呼ばれる悪性腫瘍ができたりして命を落とすこともあります。

どうやってうつるのか？

いちばん多いのは、男女とも性行為による血液・精液・膣（ちつ）分泌液を介しての感染です。このほか、麻薬の回し打ちや輸血などによる感染、感染している母親から生まれた赤ちゃんにうつる母子感染があります。たとえエイズを発病していなくても、ＨＩＶに感染した初期から他の人にうつす可能性があります。またクラミジア感染症や梅毒など、他の性感染症にかかっているとＨＩＶに感染しやすくなります。ただし、汗、唾液、涙にふれても感染しませんし、風呂やプールではうつりません。

患者は増えているのか？

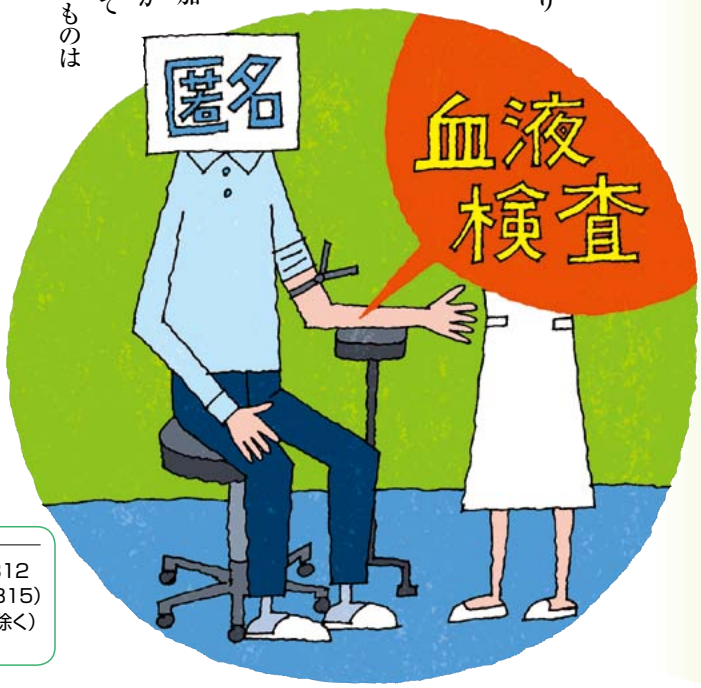
全世界ではＨＩＶ感染者は５，０００万人に達するといわれており、とくにアフリカ・アジアの開発途上国で増加しています。１９８５年にエイズ患者が確認されて以来、日本でもＨＩＶ感染者・エイズ患者は年々増加しています。男性同性間性行為による感染が多く、次いで異性間性行為による感染となっています。母子感染や薬物注射針の共用によるものは日本では多くありません。

検査は？

血液検査でＨＩＶに対する抗体ができているかどうかを調べます。感染してから抗体ができるまで８週間以上かかる場合もあるため、感染の可能性があった日から３カ月以上たってから、検査を受けてください。ＨＩＶ検査は住所に関係なく全国の保健所で匿名（とくめい）・無料で受けることができます。都内の保健所では、夜間や休日にも検査を行っている所があります。医療機関でも検査は可能ですが一般的に費用がかかります。検査目的で献血をすることはご遠慮ください。

治療は？

現在、ＨＩＶを体内から完全に排除できる治療法はありません。しかし、エイズを発病する前から、抗ＨＩＶ薬を３剤以上組み合わせて服用するＨＡＡＲＴ療法（はーと療法）を継続すれば、ウイルスが増えるのを抑えエイズの発病を遅らせることで、健康な時と変わらない日常生活を長期間にわたり送ることができます。



●エイズに関するご相談は
（財）エイズ予防財団：フリーダイヤル0120−177−812
（携帯電話からは03−5259−1815）
月〜金：10〜13時・14〜17時（年末年始・祝祭日を除く）
名前を告げる必要はありません。相談は無料です。

家族の健康 12

青年・壮年期(1) うつ

春は、新たな旅だちの季節です。進学、就職、転勤、転居等々。希望に胸を膨らませ、一方では不安を抱きながらの生活がしばらく続きます。歩み出しに失敗したり、過度の緊張で心身の疲労が訪れる5月頃、気分がゆううつになる、意欲がなくなるといった症状が出ることがあります。俗に言う「5月病」です。

「5月病」の中には「うつ」が隠れている場合があります。「うつ」はどの年代にも現れますが、特に青年期～壮年期の「うつ」は学業、仕事、家事等に大きな支障を来たし、また自殺のリスクも高くなります。そこで今回の"家族の健康"では、「うつ」について勉強しましょう。

うつは、ごく身近な病気です

「うつはこころの風邪」といったキャッチコピーが流れるほど、以前に比べ身近な病気として「うつ」が意識されるようになりました。一方、「うつ病」と診断された方の数は、平成8(1996)年の約43万人から平成20(2008)年には約104万人へと2.4倍に増加しています。この数字は医療機関を受診された方の数ですから、未受診者を含めると実際の「うつ病」患者は200万～300万人とも言われています。身近に感じられるようになったのも当然なことです。

家族の力がとても大切な病気です

「うつ」対策には家族の力がとても大切です。例えば、「うつ」の方は、自分自身で病気に気づいていないことが多いので、周囲の気づき、特に家族の視点が大切です。また、医療機関につなげる際にも家族の協力が必要な時があります。さらに「うつ」の回復には、家族の理解や支援がとても重要です。つまり、「うつ」の発見、症状の改善、社会復帰を成功させる鍵は、家族が握っていると言っても過言ではありません。

うつの症状 ―心の不調と体の不調―

最近のうつは若年化しており、青年期にもよく見られるようになりました。

「うつ」の症状は、大きく分けて2つあります。1つは心の不調と言えるもので、「ゆううつな気分」と「意欲の低下」が代表的な症状です。これらは、「口数の減少」「ため息が増える」「涙もろくなる」「好きなことにも興味を示さない」「イライラ感」などとして現れてきます。心の不調は朝から午前中にかけて強く現れます。これらの症状が毎日のように現れ、数週間続くようであれば要注意です。

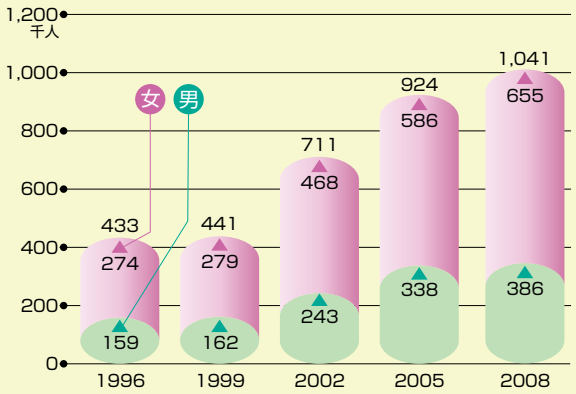
もう1つは体の不調です。「頭痛」「食欲不振」「疲労感」「不眠」などを訴えます。特に「不眠」の頻度は高く、寝つけないだけでなく、朝早く目が覚める「早朝覚醒(かくせい)」が特徴的です。

回復に向けて、家族で力を合わせて

回復の上で最も大切なことは「休養」です。頑張り過ぎてエネルギーを使い果たした状態ですから、まずはエネルギーの再充電が必要です。過度の励ましは禁物です。気晴らしに誘うのも本人の負担になりかねません。ゆっくりと休み、お薬をきちんと服用する、これが「うつ」治療の原則です。そのための環境作りに家族で力を合わせましょう。「うつ」は一進一退しながら回復していきます。あせらず根気強く治療していきましょう。「うつ」の方を支えたことで、家族の絆がより深まったという話はよく聞かれることです。

なお、心の不調・病気に関する説明、各種支援サービスの紹介など、治療や生活に役立つ総合サイトは http://www.mhlw.go.jp/kokoro です。

■わが国におけるうつ病・躁うつ病の総患者数



厚生労働省「患者調査」より

お医者さんに聞きたい答えます

子宮頸（けい）がんを予防できるワクチンがあるそうですが、どのような効果が期待されますか? またワクチン接種をしたら検診は必要ないですか?

子宮頸がんの多くはウイルス感染によるものであることがわかりました。もちろんウイルス以外の原因で発症することもあります。子宮頸がんは20代～30代の人に急増しています。性交渉時にウイルスに感染しますが、決して特別なことではなく、女性は誰でも感染する可能性はあります。ほとんどの場合は一時的感染でウイルスは自然に排除されます。しかし、ウイルスが子宮頸部に残り、感染が持続すると、一部の人が数年～十数年後、がんになる異常な細胞を含む「前がん状態」を経て、その一部ががんを発症します。この状態でも自覚症状がない場合が多いのですが、検診をすれば発見できます。完全に治療することもできます。

このウイルスはヒトパピローマウイルス（HPV）と呼ばれている種類のものです。このうち約15種類が子宮頸がんの原因になるハイリスク型とされ、中でも16型と18型が最も多く報告されています。この型のウイルスワクチンを接種すれば、子宮頸がんの70%は発症を抑えることができます。世界100ヵ国以上でワクチン接種が行われています。しかし、このワクチンはすでに感染している人からウイルスを除去することも、すでにがんに至っている人からがん組織をなくす効果もありません。

子宮頸がんで死亡する人をなくすには、『ワクチン接種』と『定期的検診による早期発見』を組み合わせることが絶対必要です。

都内のすべての区市町村で、20歳以上の女性を対象にした子宮頸がん検診が2年に一度行われており、費用は無料か1割程度の自己負担ですみます。それでも日本では対象者の20%くらいしか受けていません。もっと多くの人が受けて欲しいものです。

一方、ワクチン接種の方法は、最初に接種した時から、1ヵ月後と6ヵ月後の計3回接種をすると最も効果的と考えられています。ワクチンは高価です。そこで中学校1年生～高校1年生（あるいは小学校6年生～中学校3年生）が一部公的な補助金を受けて接種できるようになりました。対象になる年齢、自己負担額、接種できる医療機関などは区市町村によって異なりますので、最寄りの役所か医師会に問い合わせてください。

若い時にワクチン接種をして、定期的な検診を100%の人が受けると日本から子宮頸がんで亡くなる人はいなくなります。

第9回 都民公開講座リポート

いろいろな視点から支えたい どうしたらよいか？子育て支援

半蔵門前のTOKYO FMホールで第9回都民公開講座「子ども・未来・夢 ～地域で支えあう子育てを目指して」（主催＝東京都医師会、共催＝TOKYO FM、朝日新聞社）が、昨年12月5日（日）に開かれました。

とまらない少子化。大きな原因の1つには、子育ての不安、悩みがあるのでは？――医学・医療の立場からのサポートを模索するために企画された公開講座。穏やかな初冬の日曜日、開場とともに参加者が詰めかけましたが、例年と違って幼いお子さん連れ、妊婦などの聴衆が目立ちます。冒頭に臨時託児所が用意されていることが告げられ、会場がざわめきました。

挨拶する鈴木聰男東京都医師会会長

子どもは社会で育てるもの

主催者代表として挨拶した鈴木聰男東京都医師会会長は、子どもは本来社会で育てるべきもの、子育ては保護者のみの責任ではないと強調し、行政や医療、育児支援サービスなどの支援が必要と述べました。

第1部は、「育児休暇を取得して～子育てをして初めてわかったこと」と題した成澤廣修・文京区区長の基調講演でした。続く第2部は、ラジオパーソナリティ・望月理恵さんの司会進行のもと、パネリスト3名とゲスト1名によるパネルディスカッション「地域での子育て支援」が行われました。

基調講演で語る成澤廣修さん（文京区区長）

欠かせないかかりつけ医、父親の育児参加

率先垂範でとった区長の育児休暇に寄せられた多くの賛否両論、思わぬ体験と発見を、成澤さんは基調講演でユーモアたっぷりに語りました。育休をとって気づいたのは、かかりつけ医を持つ大切さ、育休は決して休暇ではないこと、父親にできることもたくさんあり愛情は連鎖すること、父親の育児参加は孤立しがちな母親の大きな助けとなることなどでした。自治体として今後いっそう子育て支援を推し進めたいとまとめました。

さまざまな立場から子育て支援を

医療Q&A

Q 「スギ花粉症が治る新しい治療法ができた」とテレビで見ましたが、どのようなものでしょうか？ 教えてください。

（府中市・48歳、女性、パート勤務）

A 最近テレビなどで頻繁に報道されている、「舌の下に小さなパンの切れ端を置き、そこにスギ花粉の液をたらすことによってスギ花粉症を治す」という治療法のことでしょうか。その治療法ですと、実はまだ開発中です。

従来から減感作療法といって、スギ花粉を少量からはじめて徐々に濃度を上げて注射をすることにより、スギ花粉に対する免疫反応を緩和していく治療法があります。これは毎週一回の注射を約半年、その後は間隔をあけていき月一回の注射を2年以上続ける必要があります。これと同様に免疫反応を緩和するため、花粉の液をパンにしみこませて2分間そのまま舌下に置いたままにします。これを最初の4週間は毎日し、その後は週に一回行い、花粉飛散期が終わったら月2回行います。それを2年以上続ける必要があるのは注射をする場合と同じですが、注射をするために頻繁に通院する必要がなく、また注射の痛みがないなどの長所があります。

今のところ、実用化まであと数年はかかるといわれています。それまではかかりつけ医に相談し、早めの治療をご相談ください。

●パネリスト

寺西　新さん
東京都福祉保健局
少子社会対策部
家庭支援課課長

橋本伸子医師
橋本こどもクリニック院長

平原真紀さん
株式会社TOMATO
代表取締役／訪問看護
ステーション ベビーノ所長

●ゲスト

早見　優さん
歌手

●司会

望月理恵さん
TOKYO FM
Blue Oceanパーソナリティ

パネルディスカッションでは、寺西新さん（東京都福祉保健局）が母子保健サービス、福祉サービスについて行政の立場から報告し、ここ10年ほど育児不安や孤立する母親への支援に力を入れていることや、生後4か月までの乳児のいるすべての家庭を訪問する「こんにちは赤ちゃん事業」にも触れました。一方、受診すべきか迷った場合、保健師や助産師が相談にのっている全国共通の#8000（平日17時～22時、土日祝9時～17時）の利用を勧めました。

大学病院、国立小児病院勤務等を経て4年前に開業した橋本伸子医師（橋本こどもクリニック院長）は「以前は感染症の患者さんが多かったが、今は育児不安の相談が非常に多い。情報があふれて混乱している」と指摘。子どもの発熱、アレルギーなどの具体例を挙げ、もし救急車を呼ぶか迷ったら、#8000とともに24時間対応の#7119の活用を、と呼びかけました。

大学病院のNICU（新生児集中治療室）での看護経験をもとに、2010年から民間の訪問看護サービス事業を始めた平原真紀さんは、23区を中心に医療ケアが必要な子どもの子育てをサポートしています。医師の訪問看護指示書のもとに訪問し、育児不安が強い親御さんの話を聞きながら人工呼吸器や酸素などの管理、育児相談を行っていることを報告、このような訪問にかかる医療費は保険適用で、乳児医療券も使えることを付け加えました。

ゲストの早見優さん（歌手）は、仕事と育児を両立してきた経験を踏まえて、2人の子が小学生になるまでは健康面での不安や悩みがたくさんあったこと、赤ちゃんが泣きやまないときは、赤ちゃんを安全な環境に置いたうえで母親が一度その部屋を出て気分転換をして戻ってくるとよいと助言されたアメリカの母親学級でのエピソードなどを披露しました。

パネルディスカッションの様子

Q&Aから得たい子育てのヒント

会場からは多くの質問が寄せられました。またTOKYO FMの番組「Blue Ocean」中の「東京都医師会プレゼンツ・ヘルシーライフ あなたの健康コーナー」でも子どもの健康や医療に関する質問が目立ちます。この講座は子育ての悩みについて有益なヒントを得る絶好の機会、そこで質問が次々と読み上げられました。「障害のある子をサポートする訪問看護ステーションの現状は?」、「ノロウイルスの予防法や注意点は?」、「病児保育の現状は?」あるいは「ママ友のつくり方を教えて」など広範囲にわたり、それぞれの専門・経験に応じてパネリストやゲストが具体的に答えました。

子育ての悩みは社会の多様な問題にたどりつきますが、医療・医学、そして地域が果たす役割は大きいはず、と感じられた冬の日のひとときでした。

連載　救急医療⑬腹痛―③痛みの原因

コラム

お腹以外にも腹痛の原因がある

腹痛のある患者さんは原因が内臓にあると考えがちですが、腹部以外の病気も原因となります。代表的なのが鼠径（そけい）ヘルニアで、一般的にダッチョウ（脱腸）といわれています。足の付け根近く（鼠径部）のお腹の壁が弱くなった場所から腸などの一部が壁の外に飛び出している状態です。横になって安静にしていると鼠径部のふくらみがなくなることが多いのですが、長時間ふくらんだままであったり、飛び出た腸が戻らなくなった状態を嵌頓（かんとん）といいます。飛び出た腸管の血流が悪くなり、その結果、腹痛や吐き気などが起こることがあります。

時には心臓の痛みのことも

他に、みぞおちが痛いと感じる場合、心臓の病気だったりすることがあります。特に高齢者では狭心症、心筋梗塞になった約1割の方は、最初にみぞおちの痛みを自覚するという報告があり、精密検査が必要です。

周りが気づいてあげたい小児の腹痛

腹痛は小児の訴える痛みの中で最も多いものの一つですが、原因の多くは便秘、急性胃腸炎、心因性などです。2歳以下でははっきりと腹痛を訴えられず、ただただ機嫌悪く泣いていることもあります。そのような場合に、外科的緊急処置が必要な腸重積症、急性虫垂炎、鼠径ヘルニア嵌頓などが含まれていることがあります。

腹痛を訴えた場合、まず横に寝かせて安静を保ちましょう。集団生活で精神的なストレスが強い子どもでは、休学や保健室での休息が最良の手段となる場合もあります。腹痛だけで他の症状がない時は、便秘ではないか、便が固くなっていないかをよく聞いてみることが大切です。日常の外来診療の場では、強い腹痛があっても浣腸で便が出てすっかり良くなる小児の患者さんが多く見られます。

排便があった場合には流す前に便の性状、色、血便の有無などを見ておきましょう。嘔吐、血便などがある時は、吐いたものや便などを持ってなるべく早く医師の診察を受ける必要があります。ぐったりしていたり、顔色が青くなっている、前屈みで歩いている、お腹の痛みが強く、押すと痛いなどの場合も、なるべく早く受診するようにしましょう。

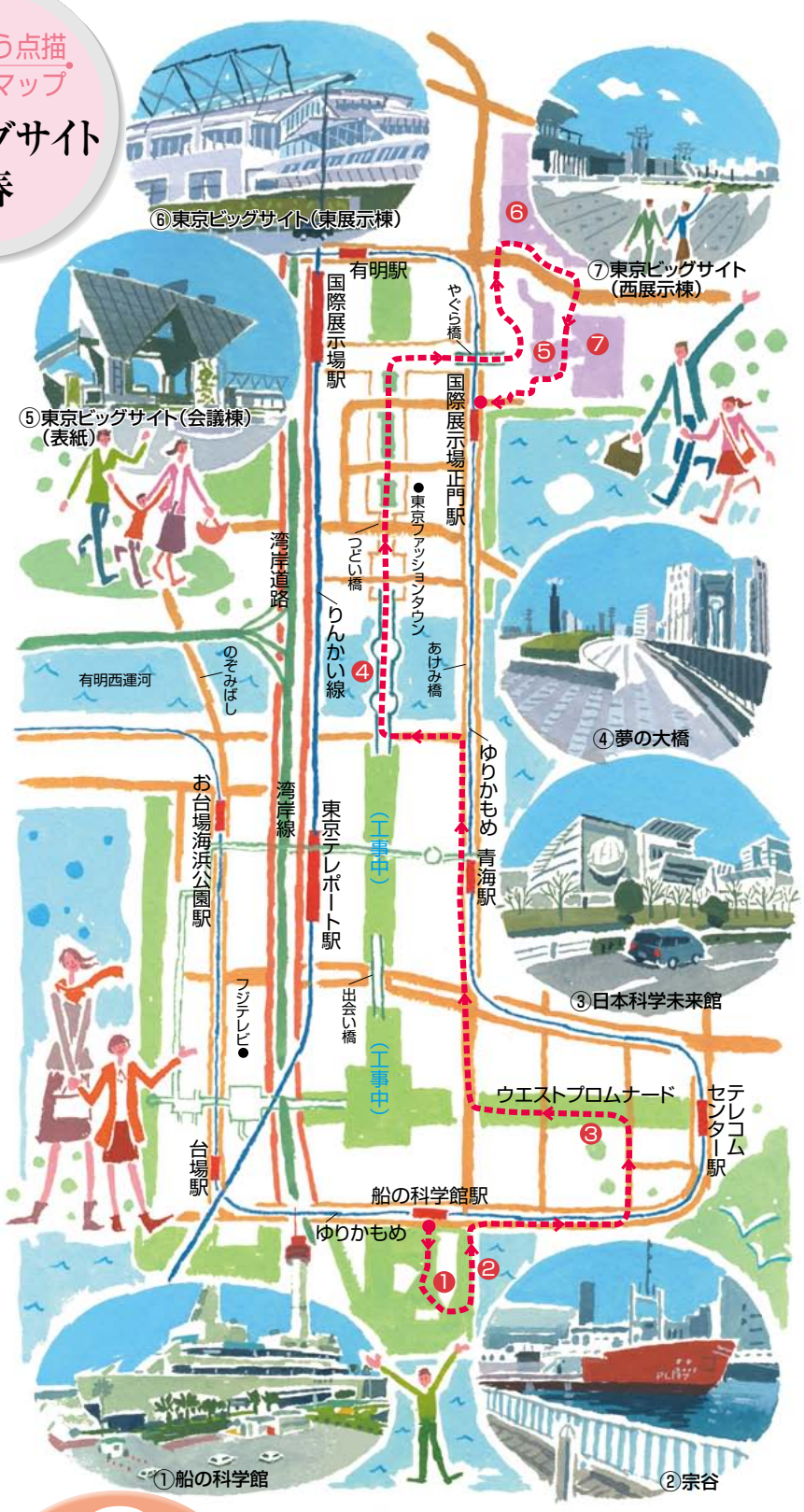
とうきょう点描
元気散歩マップ

東京ビッグサイトの春

アメリカ海洋大気局によれば、記録が残っている1880年以降では、昨年は2005年と並んで世界が最も暑かった年だという。それにしてはこの冬は寒かった。地球温暖化はこれからどうなっていくのだろう？ 船の科学館の先に係留してある往年の南極観測船「宗谷」を見ていたら、南極や北極の氷が気になってきた。

日本科学未来館から夢の大橋へと歩いていくと、春の陽射しのぬくもりがありがたい。行く手に現れたのは巨大なカニ型ロボットのような、角ばったUFOのような建物である。この東京ビッグサイト（東京国際展示場）は、4月2日から10日まで開かれる第28回日本医学会総会の会場のひとつだ。「いのちと地球の未来をひらく医学・医療」というメインテーマのもと、未来への夢や提案が展示された「博覧会」が開かれるという。科学技術の発達と環境、そして「いのち」か…。かつては想像の産物だった未来都市のような景観を眺めながら、そう考えたときにクシャミが出た。「アレッ、花粉症かな？」

――今年の春はお花見の時間を「博覧会」にも割いてみようかな。



●散歩コースと消費エネルギーのめやす

※普通の速度で歩いた場合（1分間に60m・4kcal消費）

約75分・300kcal

ゆりかもめ船の科学館駅→船の科学館→宗谷→日本科学未来館→夢の大橋→東京ビッグサイト（会議棟）→同（東展示棟）→同（西展示棟）→ゆりかもめ国際展示場正門駅（約4.5km）

板橋区医師会／板橋区脳卒中懇話会
東京都区西北部脳卒中医療連携検討会／板橋区

第4回 脳卒中区民公開講座
知れば防げる！ 脳卒中

日時：平成23年4月9日（土） 午後2時～
場所：板橋区立文化会館 大ホール
［板橋区大山東町51-1］

先着1,400名
参加費無料

第1部
脳卒中シンポジウム

第2部
「チーム・バチスタの栄光」の著者による特別講演
医療小説と医療の現実 Ai（オートプシー・イメージング）と市民社会
作家・医師 **海堂 尊**

●申込方法：参加希望の方は「住所、氏名、年齢、性別、電話番号、FAX番号、同伴者氏名」を電話にてご連絡ください。（受付時間9～20時）
●申　込　先：TEL.0986-23-1360
●問い合わせ先：社団法人板橋区医師会　TEL03-3962-1301

教えてください、先生！
体のこと、病気のこと…

東京都医師会ブース［医療相談コーナー］（無料）

午後2時～午後4時まで（予定）

東京ビッグサイトで開催される第28回日本医学会総会・博覧会の東京都医師会ブースに「医療相談コーナー」が設けられます。病気と健康に関すること、医療に関することなど、日ごろ皆さんが疑問に思っていることを専門家がお答えする相談コーナーです。まずは東京都医師会ブースへお越しください。

第28回 日本医学会総会・博覧会
会期：2011年4月2日（土）～10日（日） 入場無料

社団法人 東京都医師会
「元気がいいね」第66号（年6回隔月刊） 2011年3月15日発行
発行：社団法人 東京都医師会　〒101-8328 東京都千代田区神田駿河台2-5　Tel 03-3294-8821　Fax 03-3292-7097　／　編集：協和企画
©2011